



速報値

第98回（令和4年9月7日）  
新型コロナウイルス感染症対策  
アドバイザリーボード

資料3-10

広島県提出資料

# 将来の健康危機対応も見据えた広島県のデータ収集体制構築の取り組み 広島県新型コロナウイルス感染症版 J-SPEEDデータ等からの知見

第5波（デルタ株）と第6波・第7波（オミクロン株）データ分析【速報】



## 広島県健康福祉局

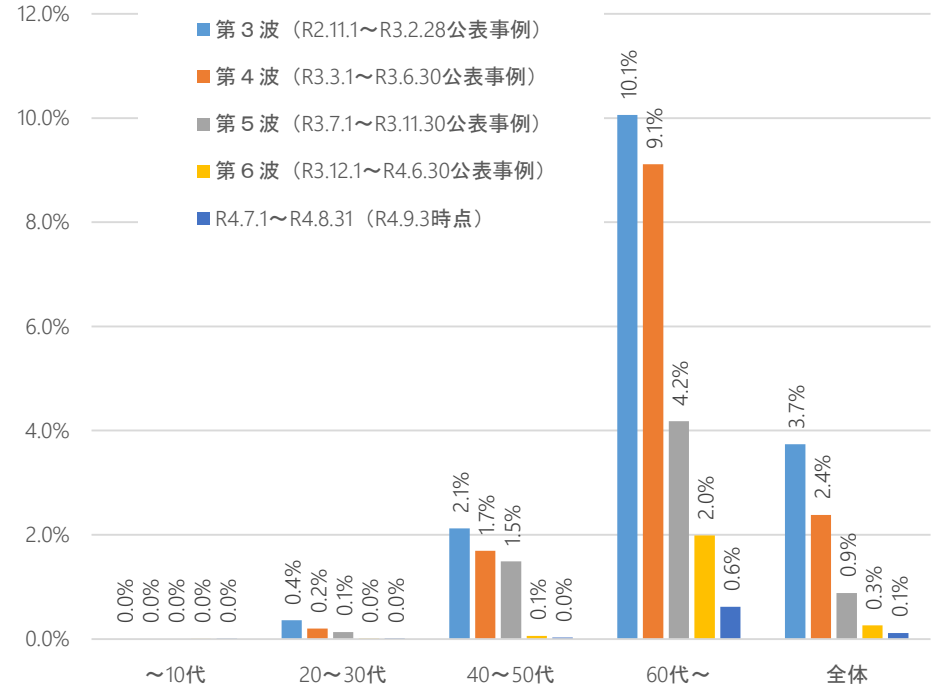
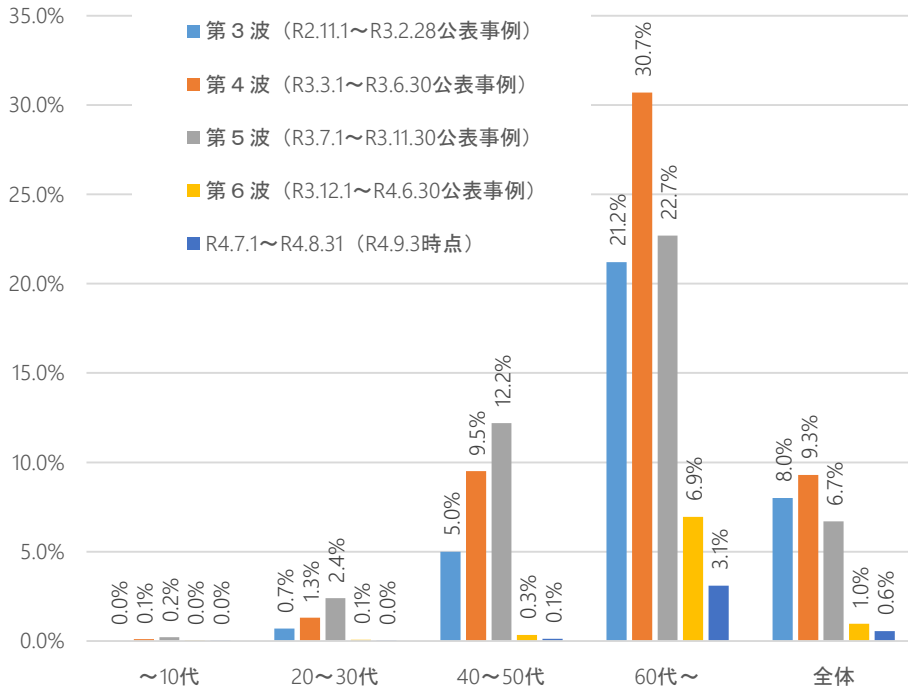


# 症状悪化率の比較【速報値】

悉皆データ

中等症Ⅱ以上

重症以上

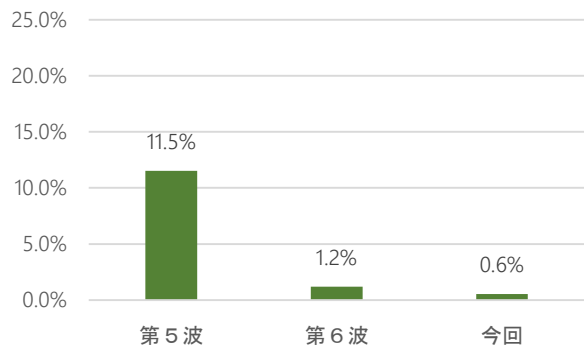


第3波	全体	中等症Ⅱ以上	重症以上	第4波	全体	中等症Ⅱ以上	重症以上	第5波	全体	中等症Ⅱ以上	重症以上	第6波	全体	中等症Ⅱ以上	重症以上	今回	全体	中等症Ⅱ以上	重症以上
~10代	402	0	0	~10代	865	1	0	~10代	2,199	4	0	~10代	48,081	10	2	~10代	54,358	13	4
20~30代	1,390	10	5	20~30代	2,517	33	5	20~30代	4,451	105	6	20~30代	46,752	34	4	20~30代	57,214	17	9
40~50代	1,269	63	27	40~50代	1,773	169	30	40~50代	2,953	361	44	40~50代	33,584	112	20	40~50代	51,837	62	15
60代~	1,302	276	131	60代~	1,306	401	119	60代~	1,052	239	44	60代~	17,998	1,250	358	60代~	31,882	986	197

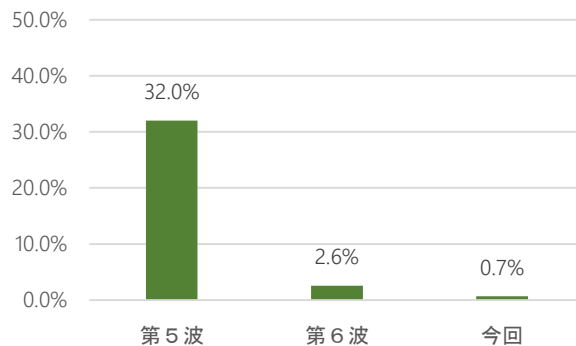
※年齢不明例は除外して集計  
 ※患者公表日を基準として集計  
 ※R3.12.1~12.21の公表患者数は0  
 ※R4.7.1~R4.8.31のデータのステータスはR4.9.3時点までのデータを使用（そのため、8月後半の公表事例については今後症状悪化する可能性がある点に留意）  
 ※中等症Ⅱ以上：中等症Ⅱ、重症、死亡の状態を指す。重症以上：重症、死亡の状態を指す。

重症化率は波を経るごとに低下傾向  
 直近において、第5波以前と比較した症状悪化率の上昇は見られない

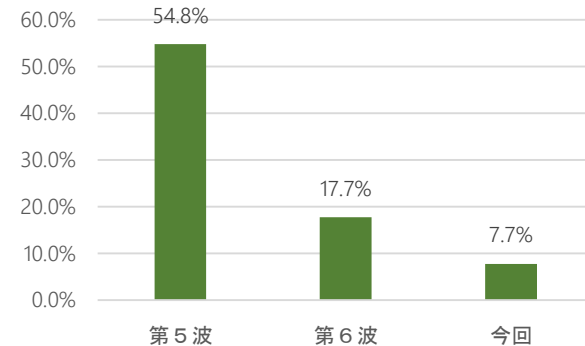
入院する割合\_30代以下



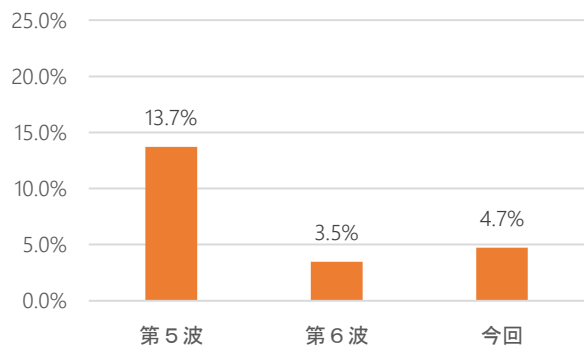
入院する割合\_40~50代



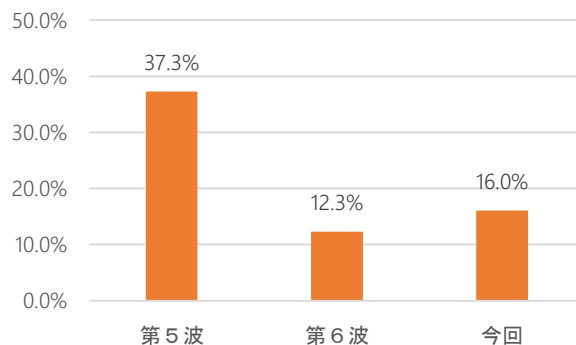
入院する割合\_60代以上



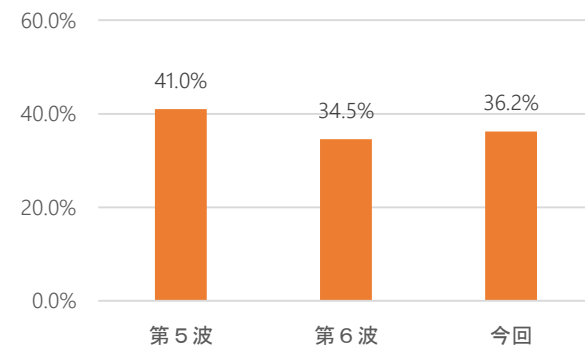
入院者における症状悪化率\_30代以下



入院者における症状悪化率\_40~50代



入院者における症状悪化率\_60代以上



第5波：R3.7.1~R3.11.30公表事例

第6波：R3.12.1~R4.6.30公表事例

今回：R4.7.1~R4.8.31公表事例（R4.9.3時点までのデータを使用（そのため、8月後半の公表事例については今後症状悪化する可能性がある点に留意）

※中等症Ⅱ以上：中等症Ⅱ、重症、死亡の状態を指すが、入院を経ずに死亡した事例は含まれない点に留意

◆波を経るごとに入院する割合は減少

◆50代以下においては、入院者の中から症状が悪化する割合は第6波以降減少

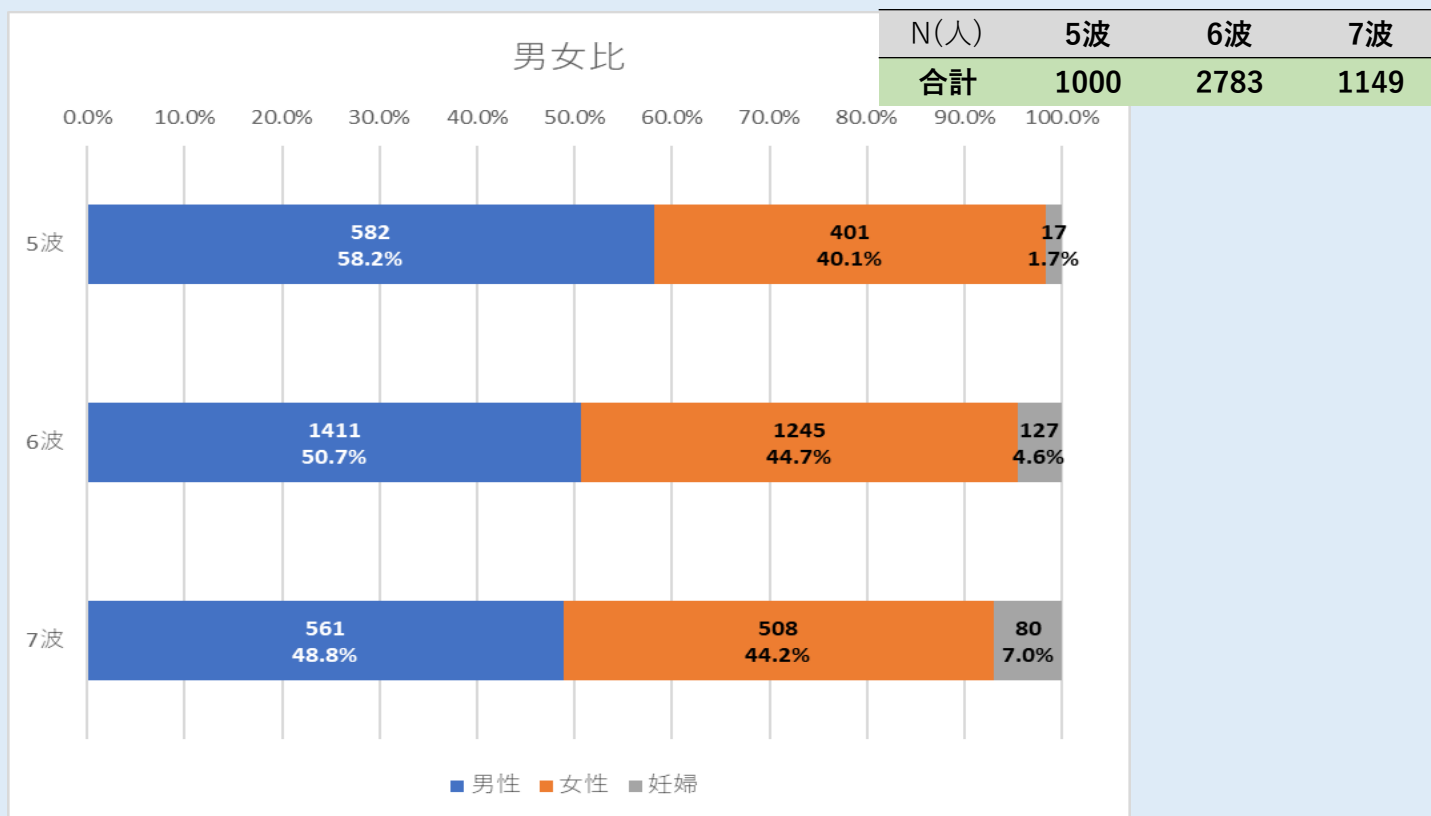
◆60代以上においては、入院する割合の減少と比較して入院者の中から症状が悪化する割合は大きく変化していない

→各年代において大幅に入院対象者を絞り込んでいるとまでは言えず、波ごとのデータを比較することで医療ニーズの高い患者の臨床像の変化を把握可能と考える。

病院版

## 第5波と第6, 7波の男女比比較

第5波：2021年7月1日～10月末日,第6波：2022年1月1日～6月末日, 第7波：2022年7月1日～

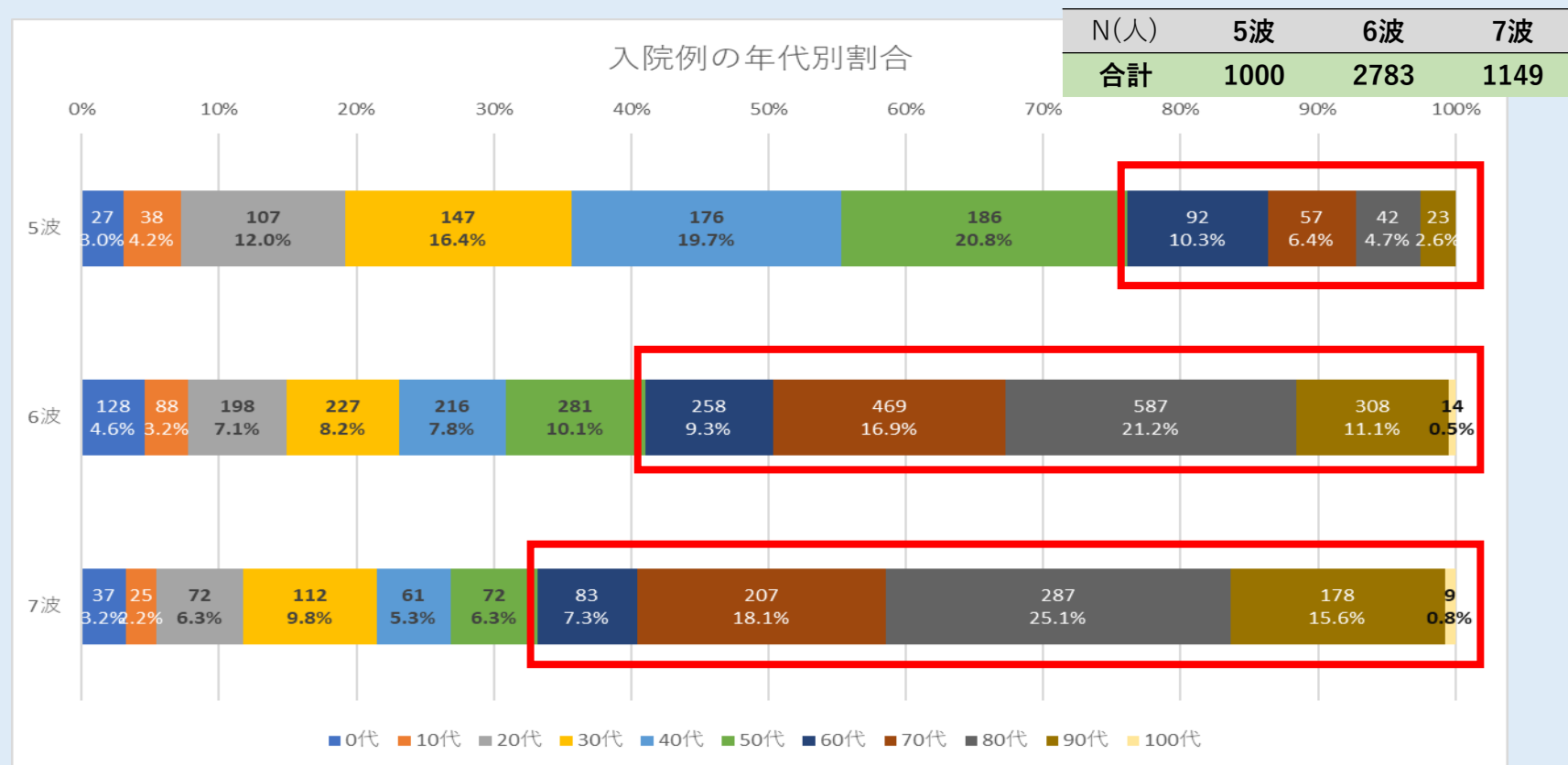


妊婦入院例の占める割合の上昇がみられる  
第6波以降, 女性の割合が若干上昇

病院版

# 第5波と第6, 7波の年齢構成比較

第5波：2021年7月1日～10月末日,第6波：2022年1月1日～6月末日, 第7波：2022年7月1日～

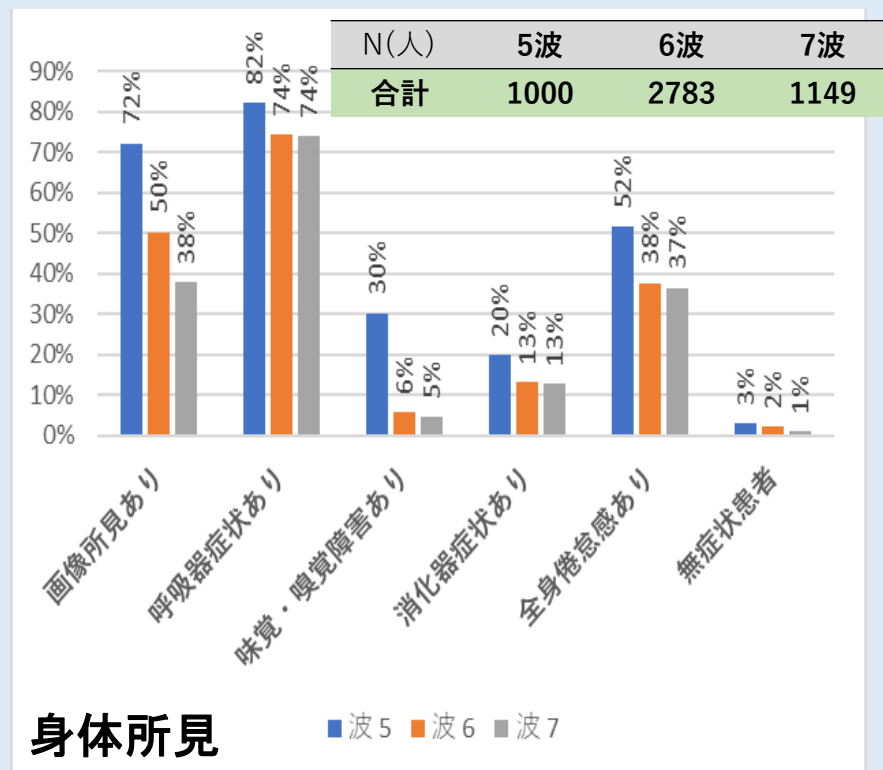
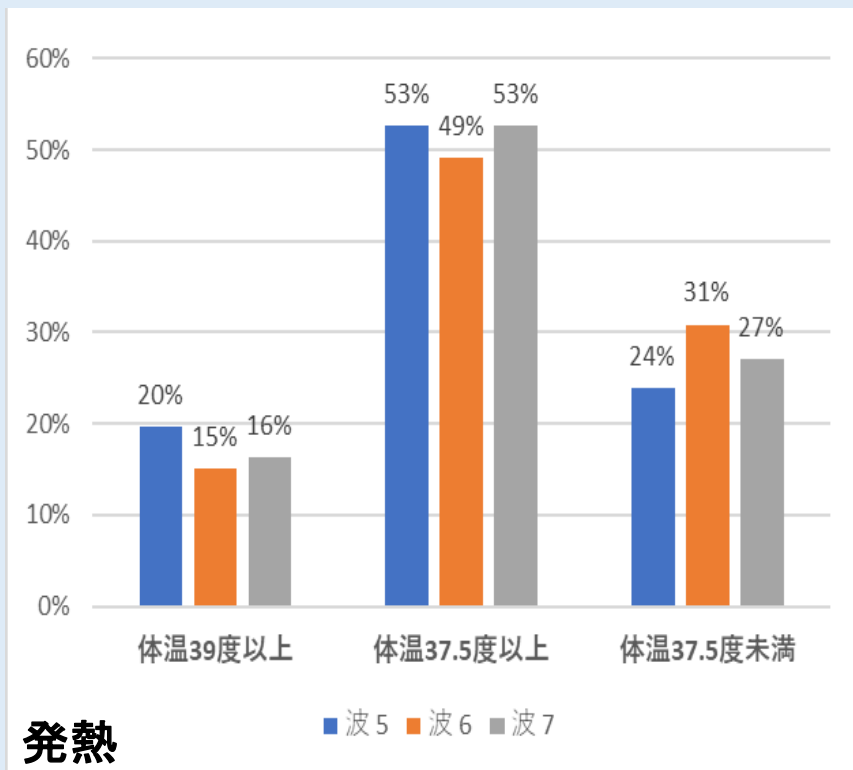


第6波, 第7波では第5波と比較して60代以上の占める割合が上昇  
(入院事例の多くを60代以上の高齢者が占めるようになった)

**病院版**

# 【全体】第5波と第6，7波の身体所見比較

第5波：2021年7月1日～10月末日,第6波：2022年1月1日～6月末日,第7波：2022年7月1日～



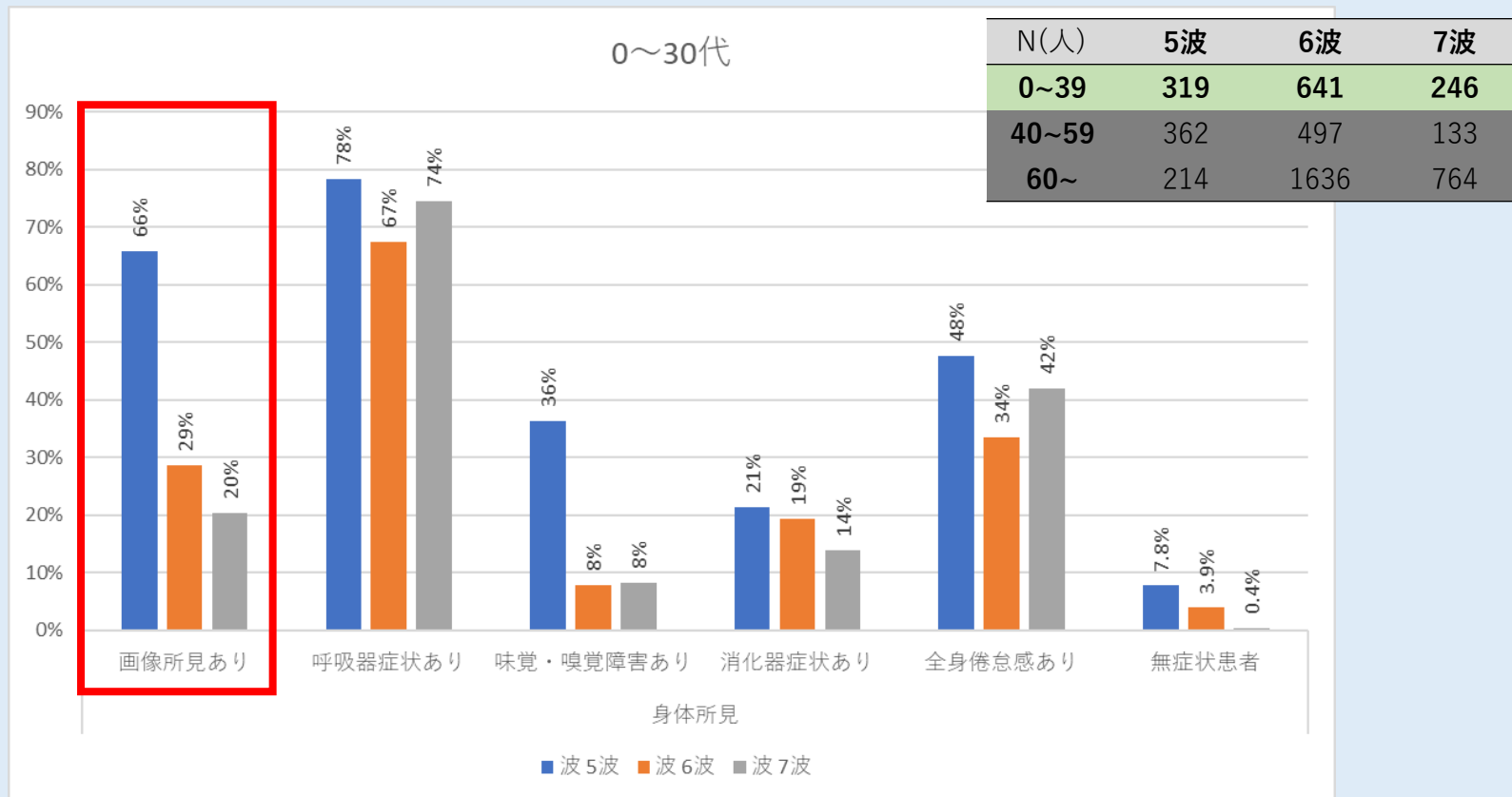
N(人)	5波	6波	7波
合計	1000	2783	1149

第6波，第7波においては，第5波と比較して「画像所見あり」の割合が低下

病院版

【年代別】第5波と第6，7波の身体所見比較

第5波：2021年7月1日～10月末日,第6波：2022年1月1日～6月末日, 第7波：2022年7月1日～



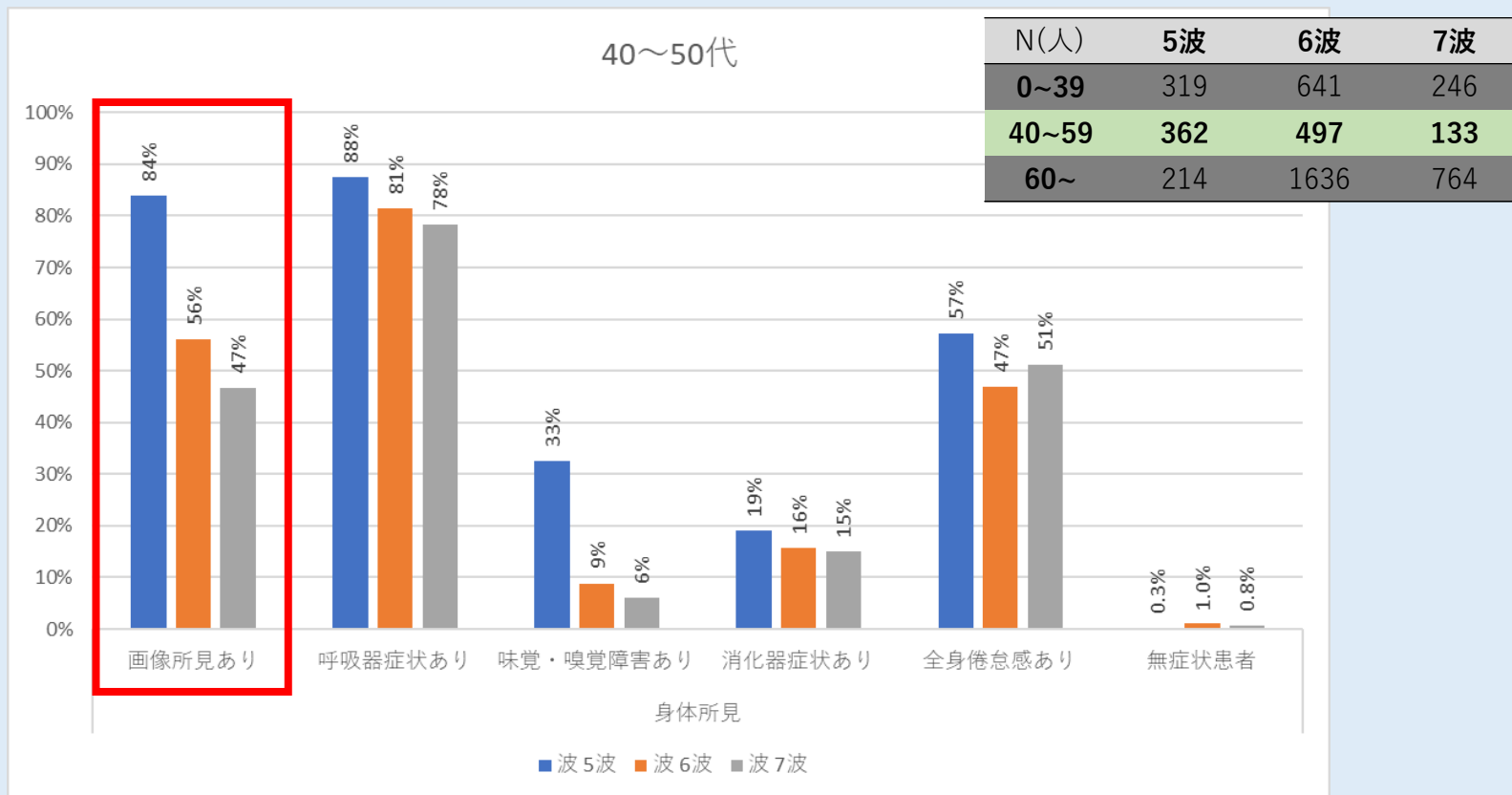
30代以下の若年層

「画像所見あり」となる割合が第6波以降大きく減少  
「味覚・嗅覚障害あり」についても同様だが、その他の所見には大きな変化なし

病院版

【年代別】第5波と第6，7波の身体所見比較

第5波：2021年7月1日～10月末日,第6波：2022年1月1日～6月末日,第7波：2022年7月1日～



40～50代

「画像所見あり」となる割合が第6波以降減少

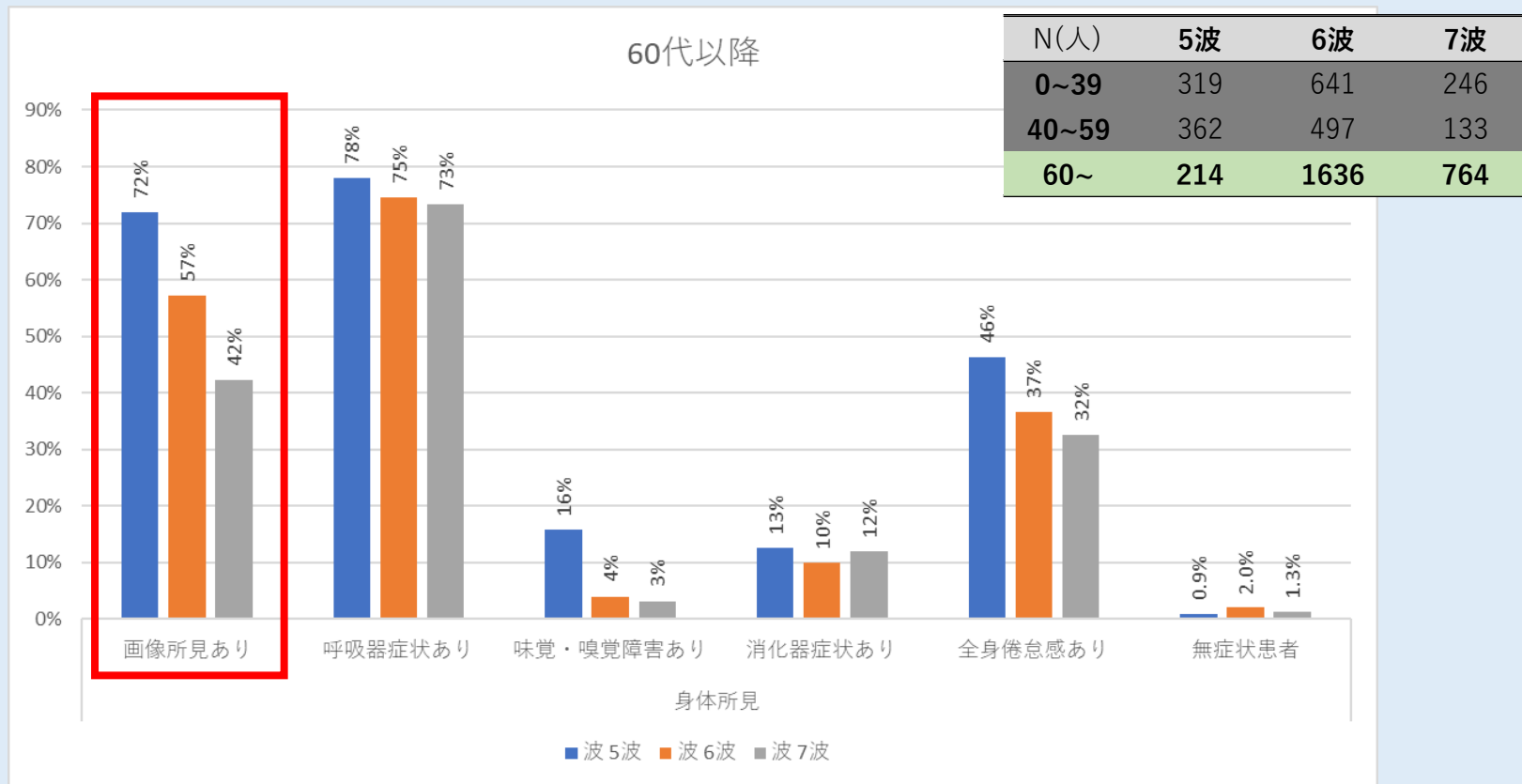
「味覚・嗅覚障害あり」についても同様だが、その他の所見には大きな変化なし



病院版

【年代別】第5波と第6，7波の身体所見比較

第5波：2021年7月1日～10月末日,第6波：2022年1月1日～6月末日, 第7波：2022年7月1日～



60代以上の高齢層

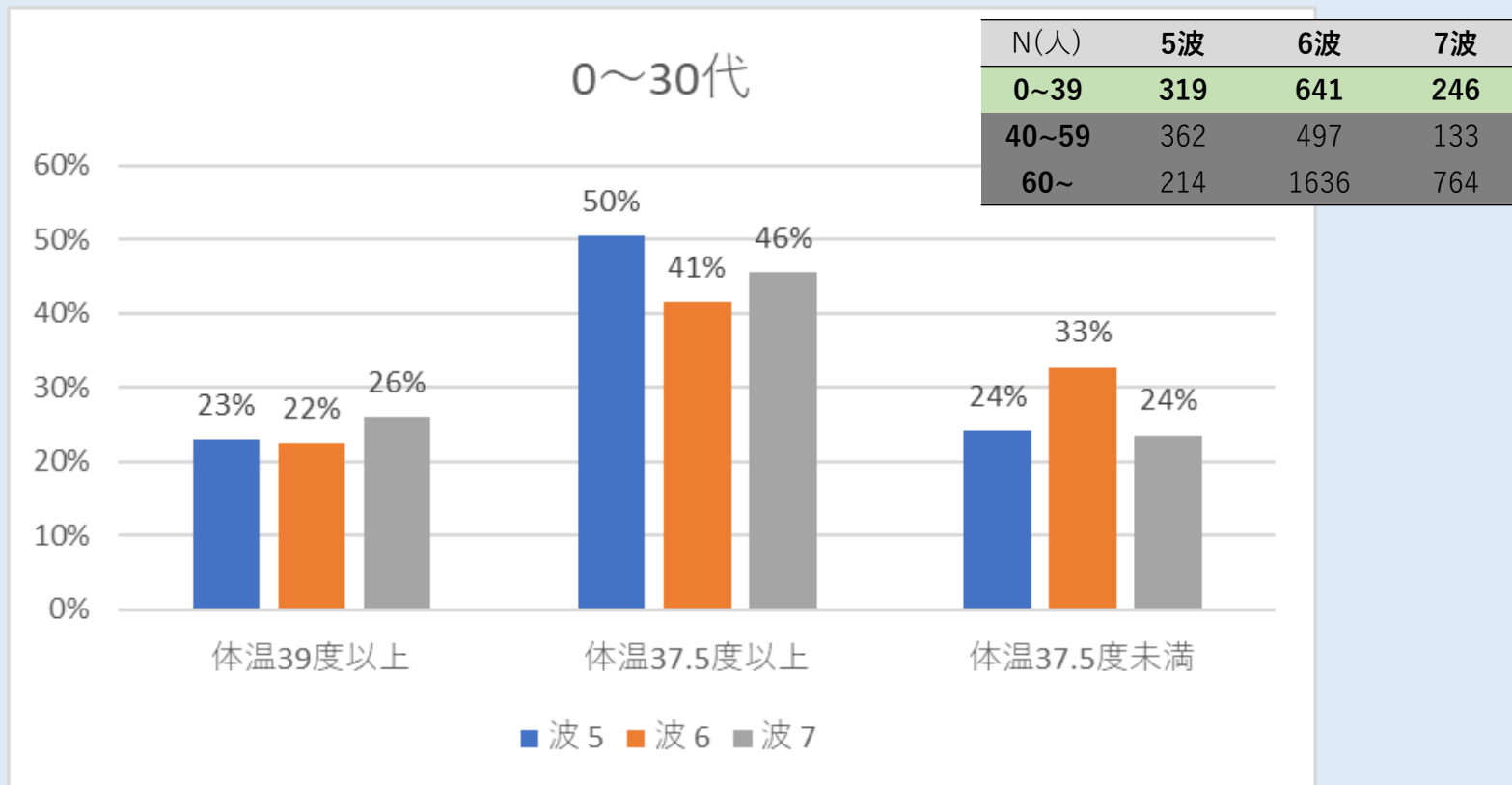
「画像所見あり」となる割合が第6波以降減少傾向（ほかの年代と比較すると緩やかな減少）

総じて、入院例において肺炎像を示すような事例の発生割合は減少していると考え

## 病院版

## 【年代別】第5波と第6，7波の身体所見比較

第5波：2021年7月1日～10月末日,第6波：2022年1月1日～6月末日,第7波：2022年7月1日～

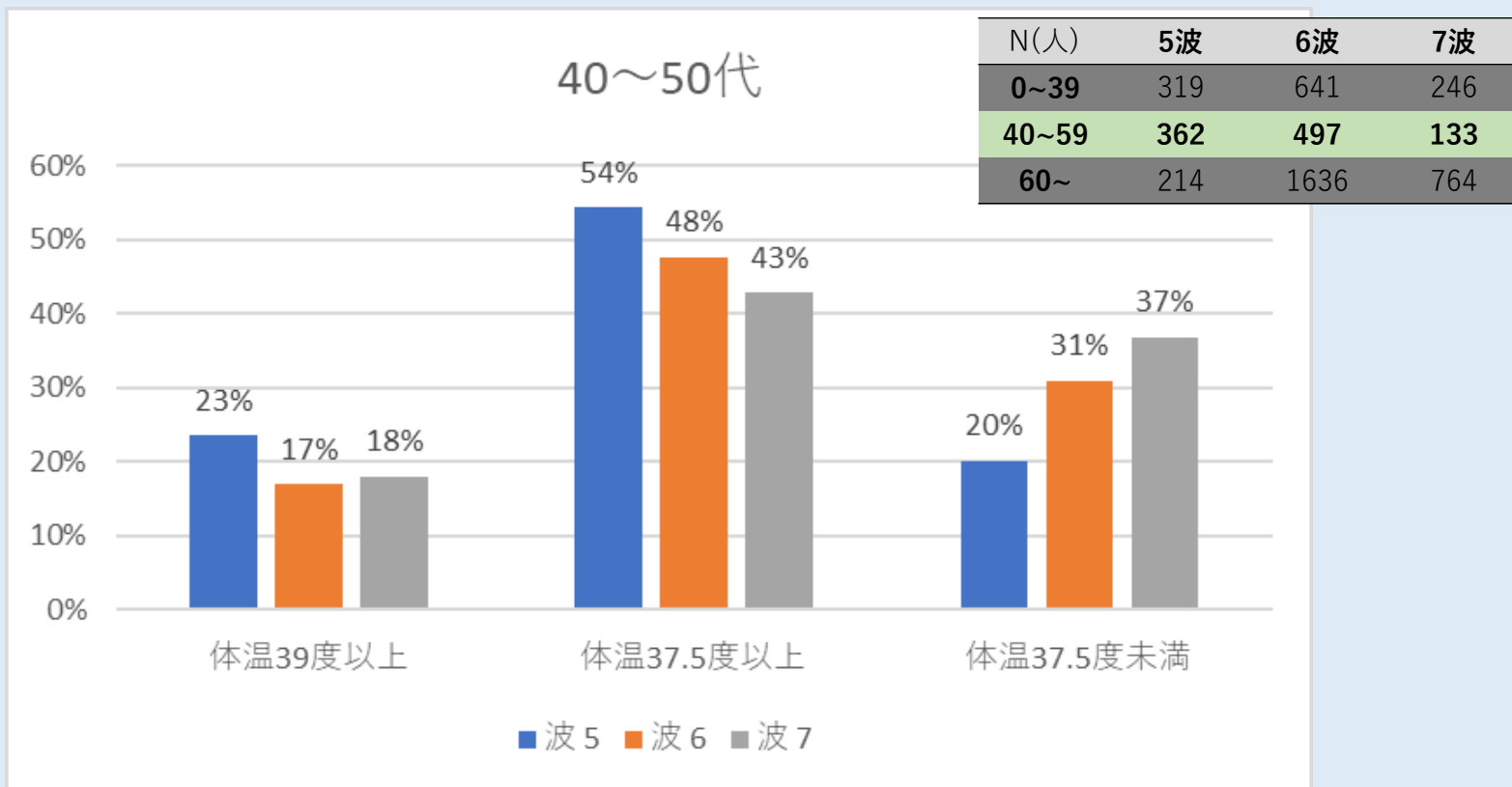


30代以下の若年層  
発熱の状況について大きな変化はみられない

病院版

# 【年代別】第5波と第6，7波の身体所見比較

第5波：2021年7月1日～10月末日,第6波：2022年1月1日～6月末日,第7波：2022年7月1日～



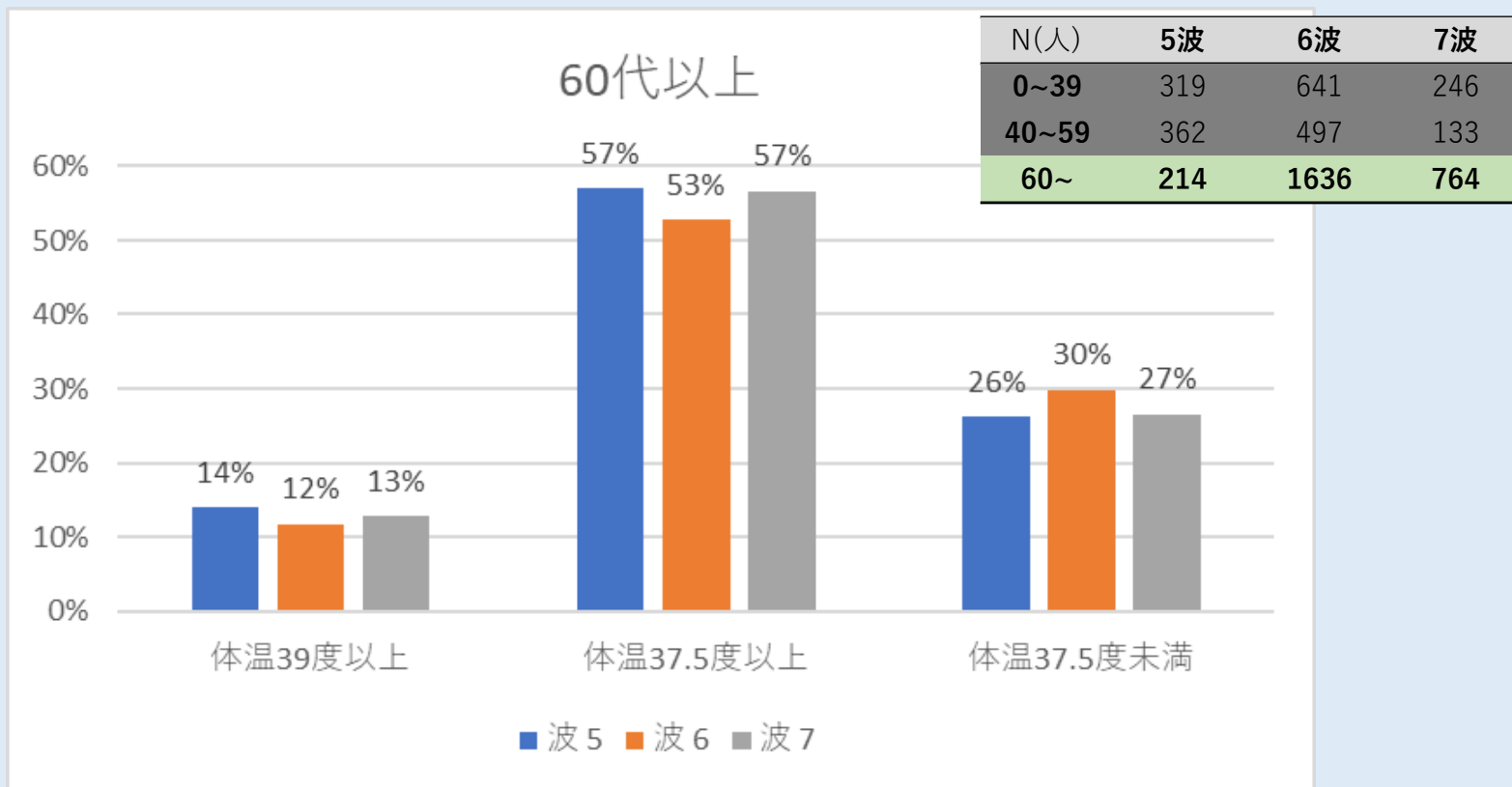
40～50代

37. 5度以上の発熱がみられる割合は減少している可能性あり（ほかの年代ではみられない）

## 病院版

## 【年代別】第5波と第6，7波の身体所見比較

第5波：2021年7月1日～10月末日,第6波：2022年1月1日～6月末日,第7波：2022年7月1日～

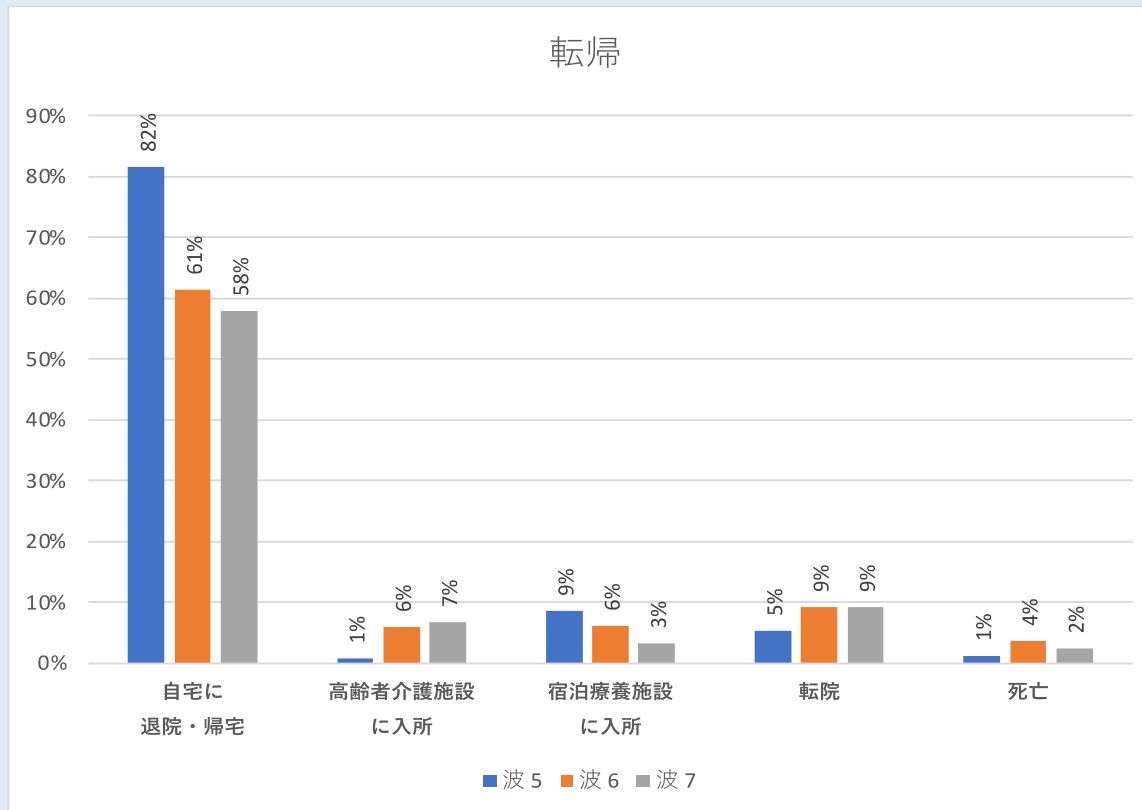


60代以上の高齢層  
発熱の状況について大きな変化はみられない

病院版

## 第5波と第6, 7波の転帰比較

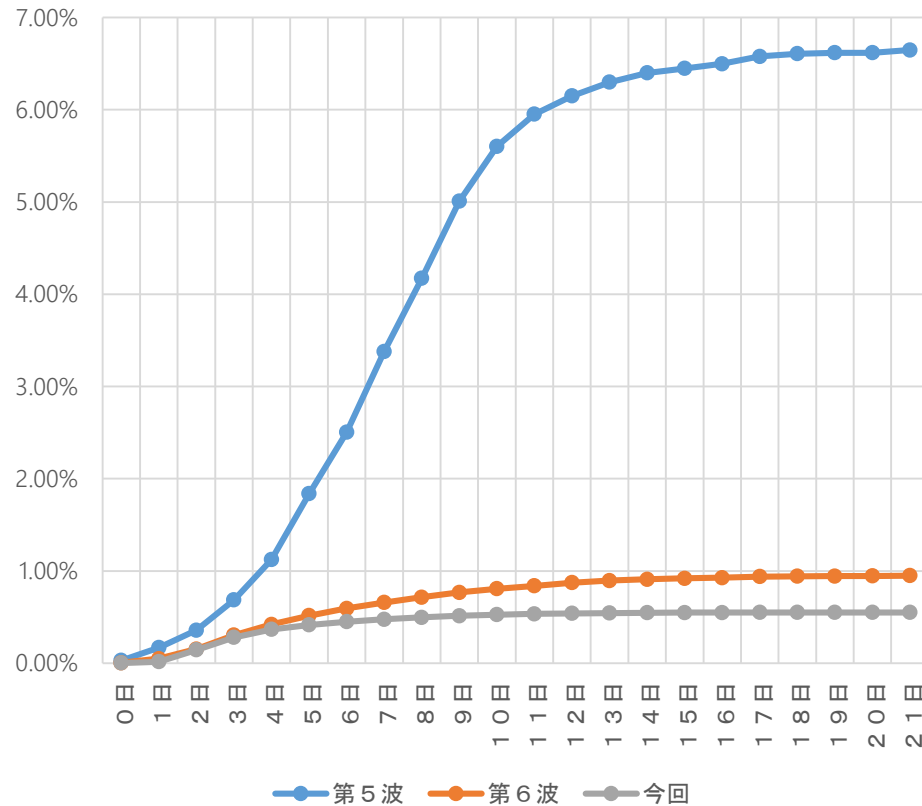
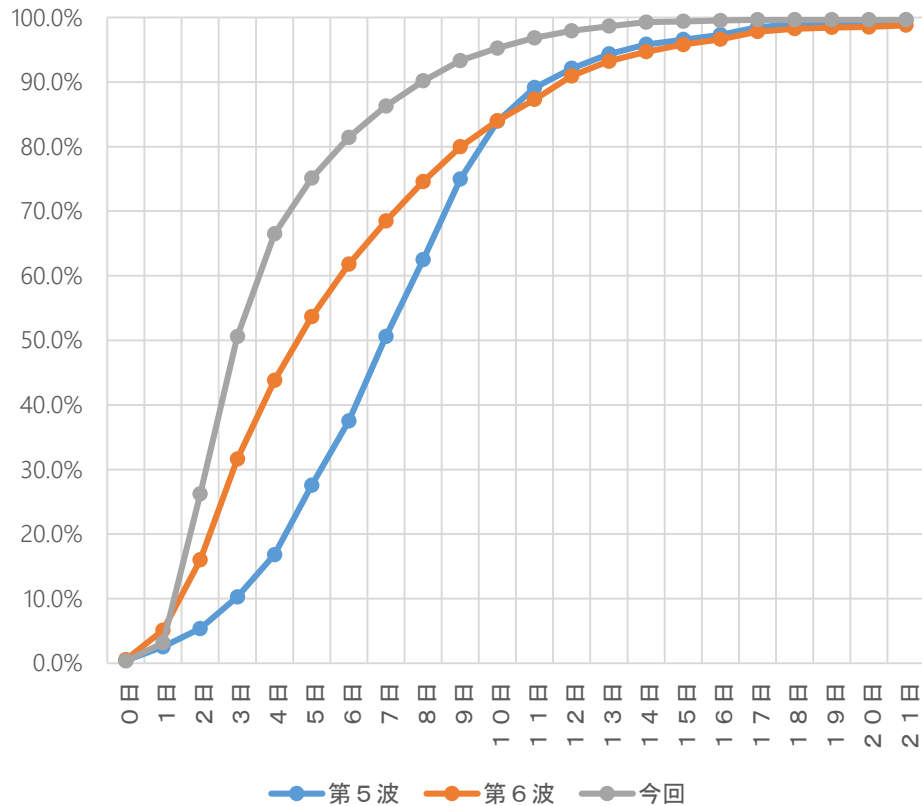
第5波：2021年7月1日～10月末日, 第6波：2022年1月1日～6月末日, 第7波：2022年7月1日～



第6波以降，入院患者に占める高齢者の割合が上昇したことで自宅に帰ることが難しい事例（高齢者施設や他の医療機関に療養の場を移す事例）の占める割合が上昇したと考える

中等症Ⅱ以上へ悪化した者における、  
発症から症状悪化までの累積割合の推移  
(症状悪化例を100%とした場合)

患者全体のうち、中等症Ⅱ以上へ悪化した者の  
発症から症状悪化までの累積割合の推移  
(患者全体を100%としている)



第5波：R3.7.1～R3.11.30公表事例  
 第6波：R3.12.1～R4.6.30公表事例  
 今回：R4.7.1～R4.8.31公表事例 (R4.9.3時点までのデータを使用 (そのため、8月後半の公表事例については今後症状悪化する可能性がある点に留意))  
 ※中等症Ⅱ以上：中等症Ⅱ、重症、死亡

第5波と比較すると第6波以降では、症状悪化する場合には発症から短い期間で悪化する可能性が示唆  
 発症から7日目までに症状悪化する例は、症状悪化例全体の約9割  
 ただし、患者全体で見ると第6波以降では症状悪化する割合は低下しており、短期間における悪化率は第5波の方が高い

## 今回のデータからわかること

- ◆第5波と第6波以降では重症化率の減少がみられる。
- ◇60代以上においては、入院する割合の減少と比較して入院者の中から症状が悪化する割合は大きく変化しておらず、本県においては、大幅に入院対象者を絞り込んではいない。そのため、入院患者における波ごとのデータを比較することで、医療ニーズの高い患者の臨床像の変化を把握可能だと考えた。
  
- ◆第5波と比較すると第6波及び第7波においては、入院患者に占める高齢者の割合が上昇している。
  
- ◆第6波以降、画像所見がある症例の発生割合は減少（全体で約半減）  
→医療機関が患者を受け入れる上でのハードルは低くなるのではないか
  
- ◆そのほかの所見については目立った傾向の変化は認められない。
  
- ◆入院患者において高齢者が占める割合が上昇していることから、医療機関での入院治療後の受入先の確保がより重要となる。
  
- ◆症状が悪化する場合には、発症から比較的短い期間で悪化する傾向があるため、早期の対応が重要となる。一方、発症後7日程度経過した後に悪化する事例は少ない。